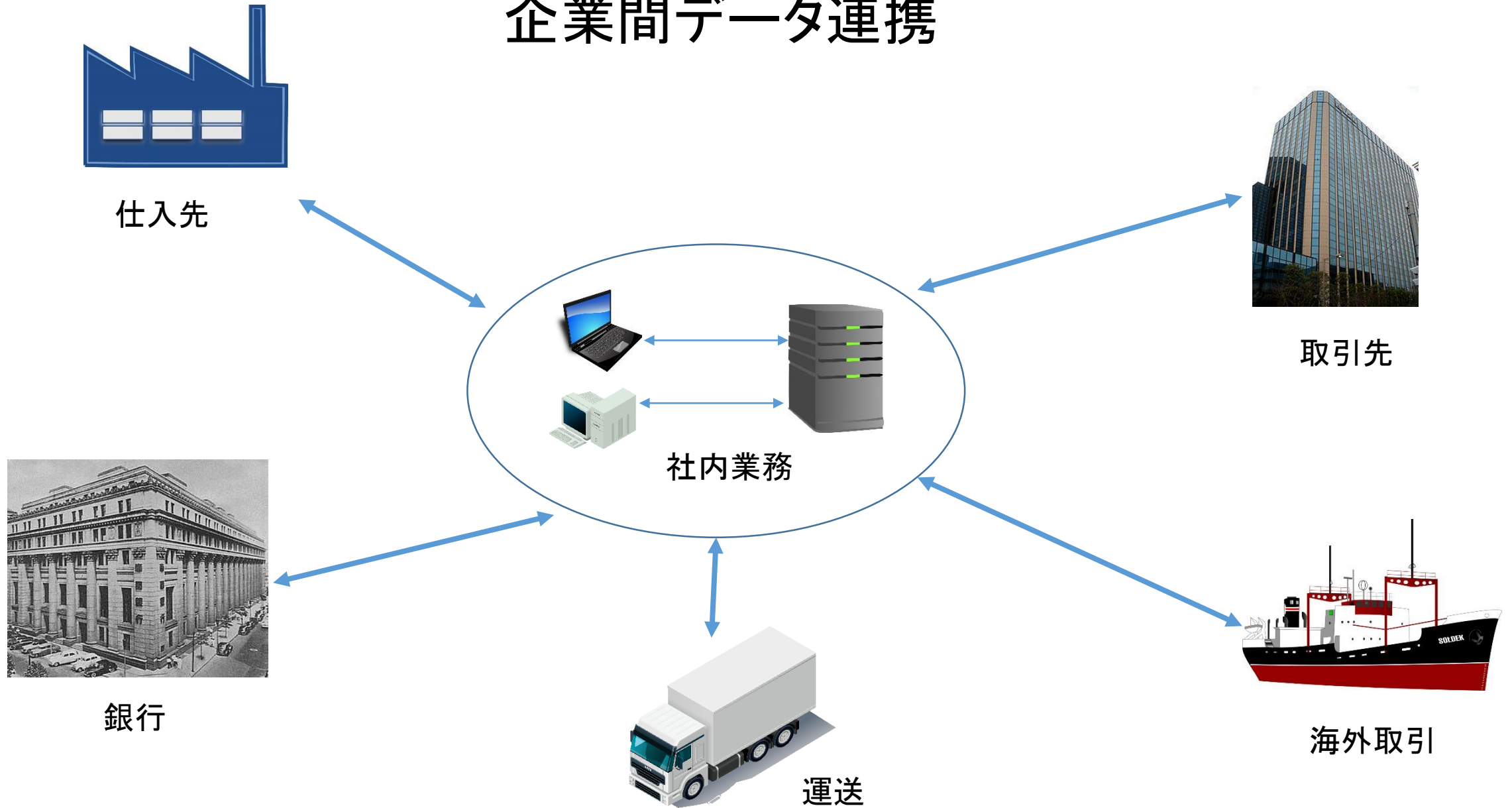


共通辞書の活用について

企業間データ連携



国際標準（国連CEFACT標準）の意義

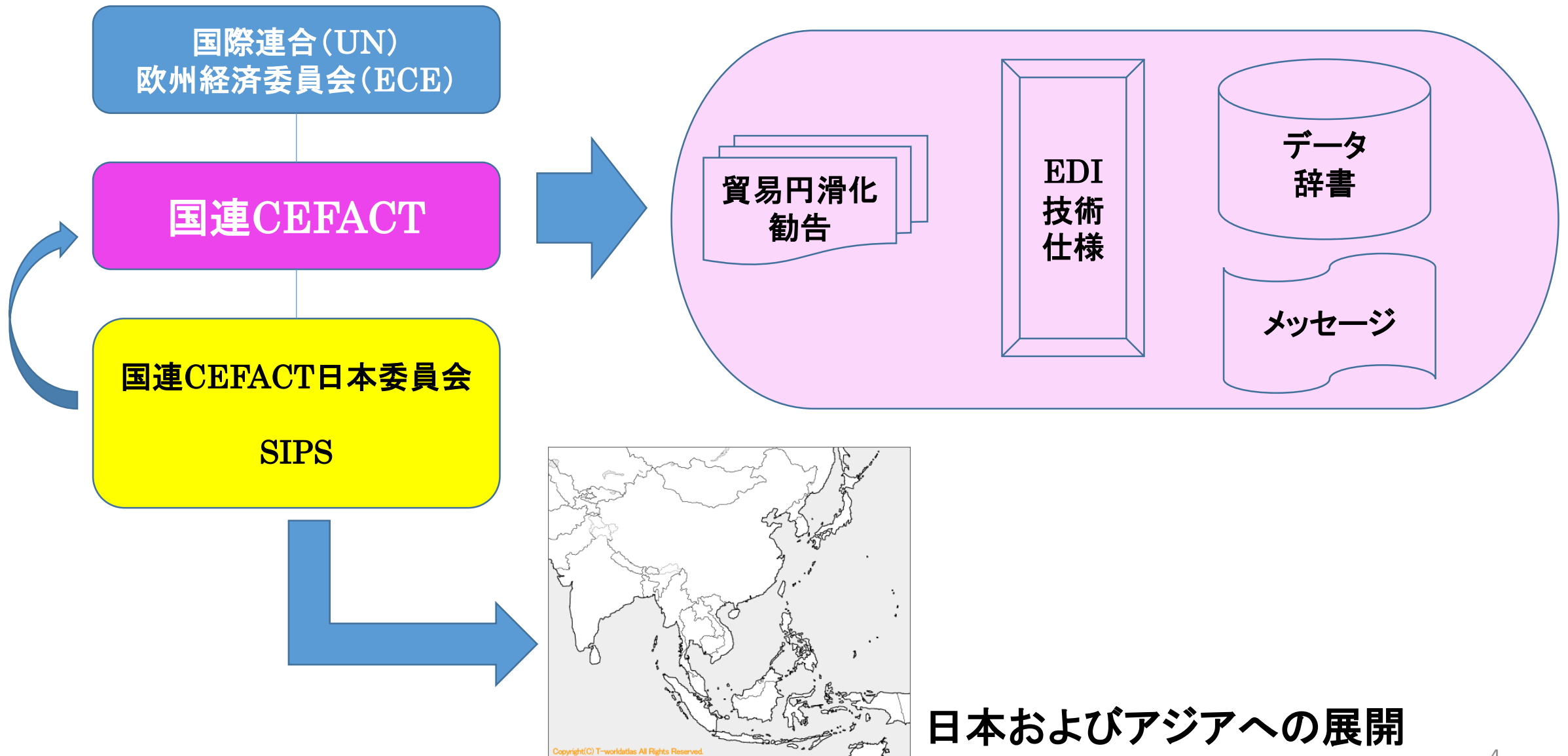
1. 既存の業界標準を統合化できる

- ➔ 業界の力関係を超越する。
- ➔ 業界間相互運用の仲介になる。
- ➔ 中小企業でも標準仕様を主張できる。
- ➔ 産業構造の変化にも独立。

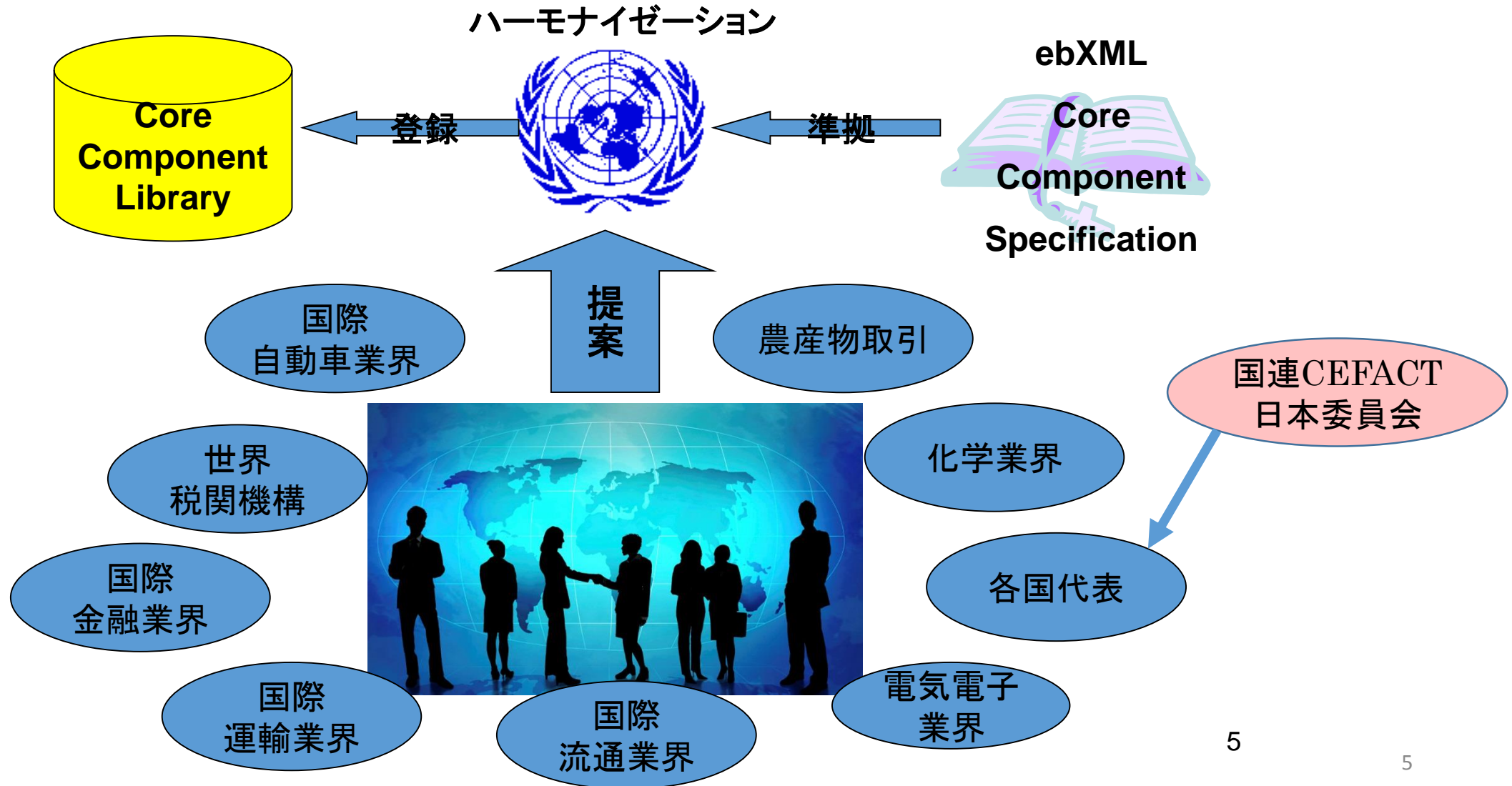
2. 国際化に対応できる

- ➔ 海外との取引で仕様の合意が容易になる。
- ➔ 海外進出先でも国内と同等の仕組をベースにできる。
- ➔ 国内の効率的ビジネスプロセスを標準として展開できる。

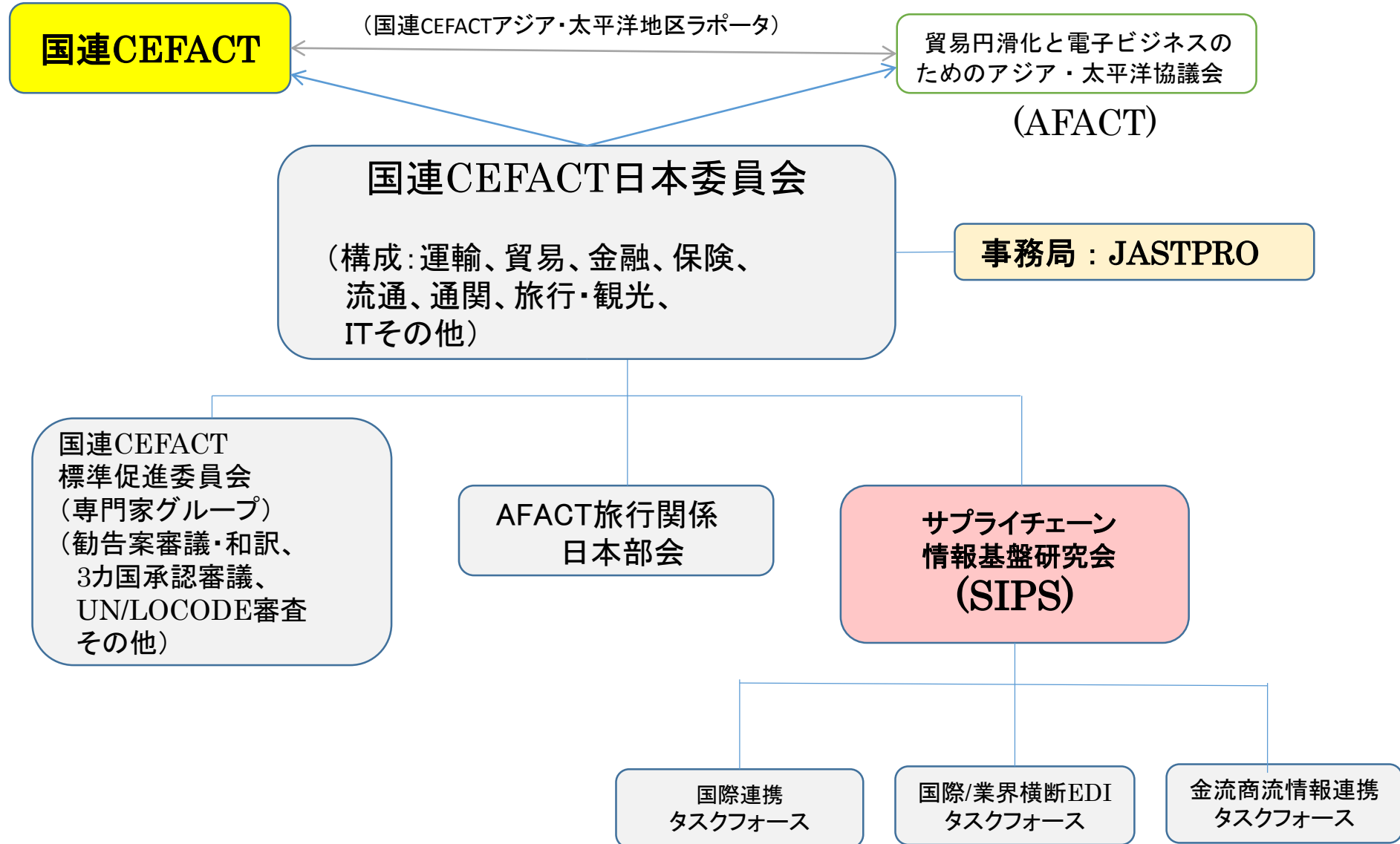
国連CEFACT標準とは



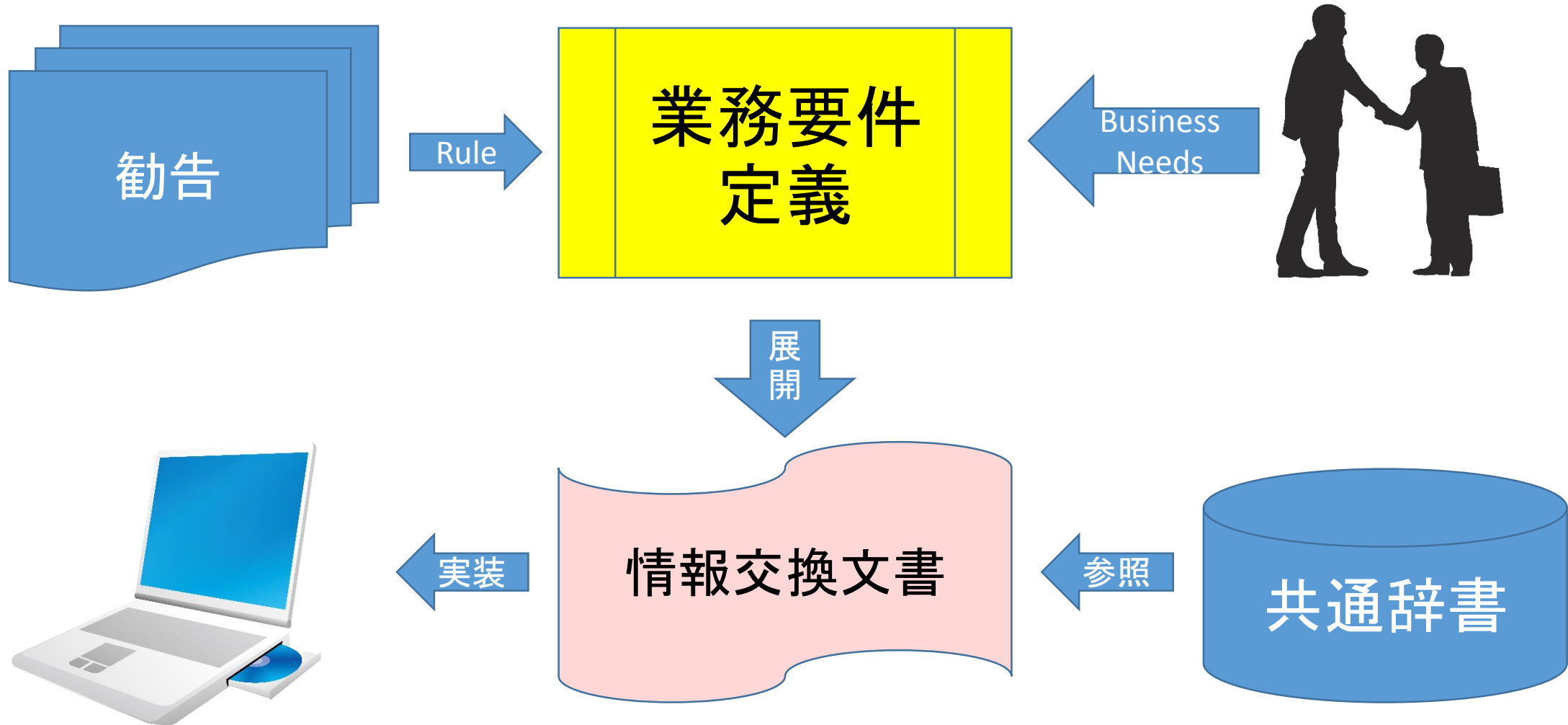
国連CEFACT CCLの開発・保守



国連CEFACTと我が国との関係



国連CEFACT標準の枠組み



公開済の主な国連CEFAT標準

サプライチェーン分野

市場調査、商品カタログ、見積、受発注、納入、請求、支払

行政・調達領域

電子入札、プロジェクト管理、廃棄物輸出入、化学物質データ、絶滅危惧種輸出入

運輸領域

危険品輸送、貨物輸送状、輸送指示

産業特化領域

農業分野: 動植物検疫、食品警報システム、家畜育成記録、穀物育成記録、鮮魚追跡

旅行／観光分野: 小規模宿泊施設、地域観光情報

会計分野: 財務諸表、監査証拠

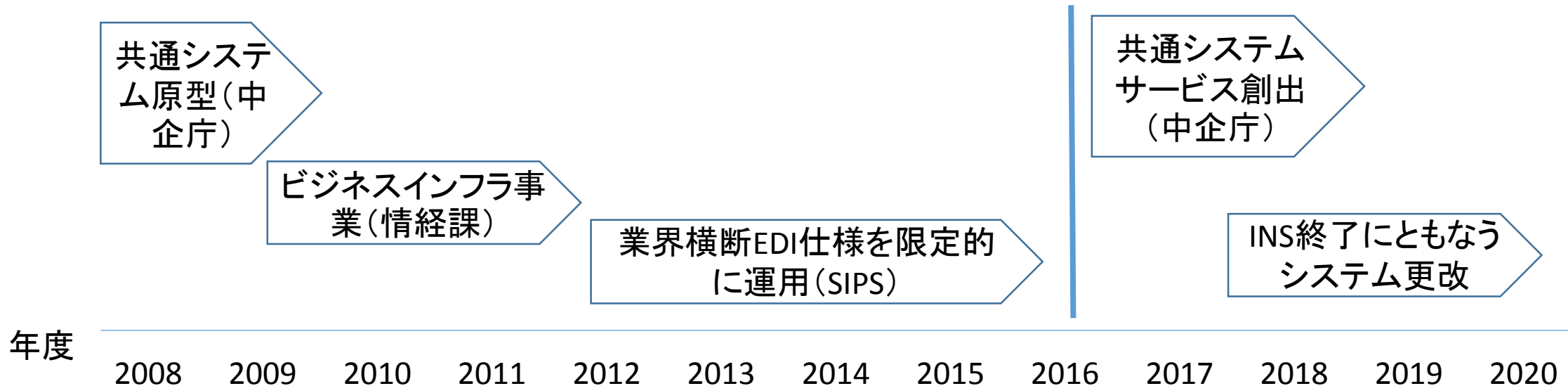
ユーティリティ分野: エネルギーデータ再利用

日本から提案の国際標準

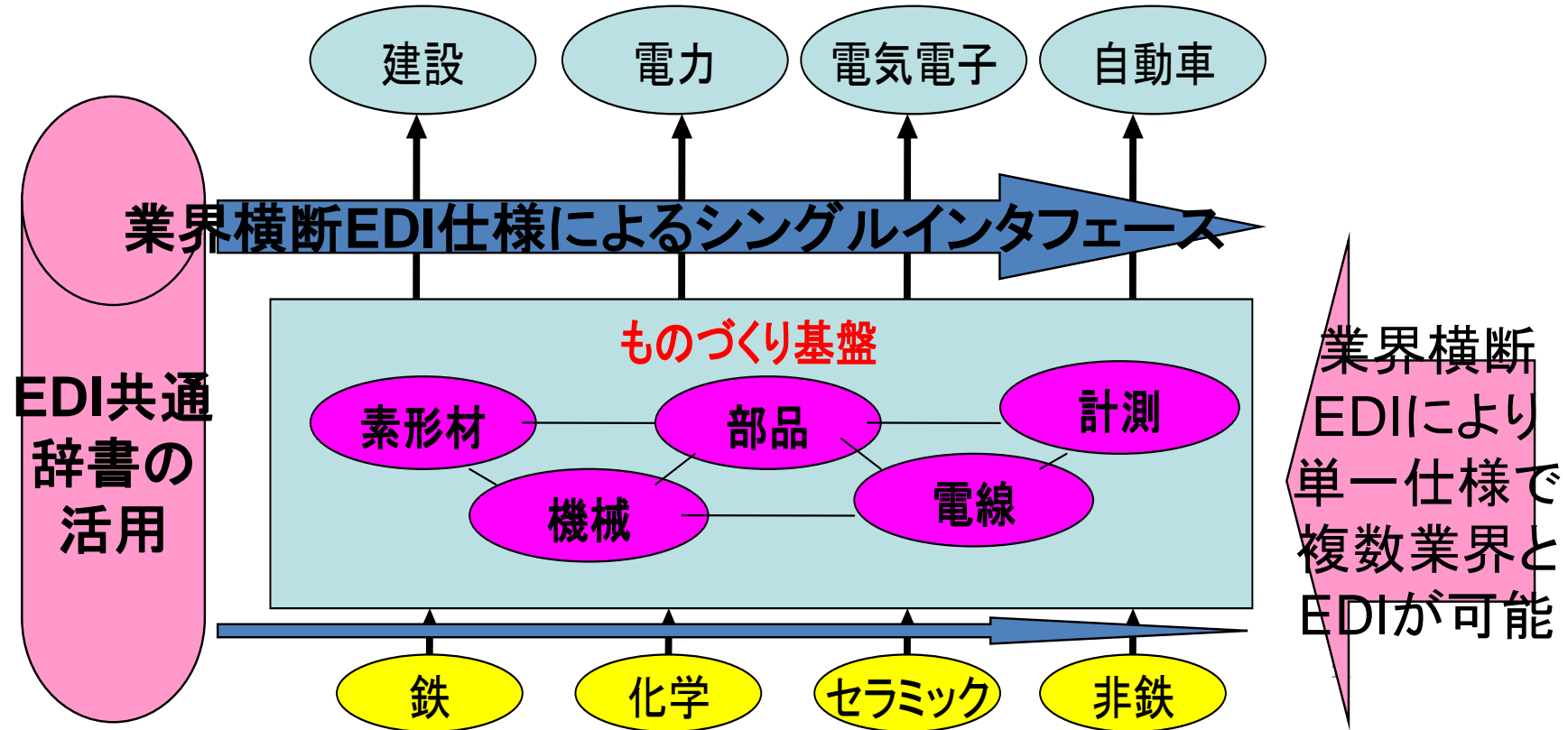
- **電子入札**
国内建設系公共調達の仕事組みを国際提案
- **小規模宿泊施設**
旅館の情報化を推進
- **中小企業EDI対応**
中小企業共通EDI仕様からの要求を反映
- **支払通知**
日本における金流商流情報連携の要求を反映
- **JIT生産プロセス**
日本式ジャストインタイム方式を提案(審議中)
- **エネルギーデータ再利用**
電力使用状況のビッグデータ分析への活用を提案(審議中)

システム共通化は大筋の議論では理解が得られても個別導入は進まず

- (発注側) 過去、受発注システム共通化のために国で共通システム導入を検討したが、当時活用されているシステムがあるにも関わらず、新たに投資した場合の費用対効果の理解が得られず、導入は進んでいない。
- (受注側) 業界・企業別のシステムを取引先ごとに個別に導入するには、煩雑でありコストも手間もかかる。結果的に電話・FAX・メールによるやり取りでなんとか済ませている。
- 共通システムでサービスを提供するプロバイダーは顧客が少なく育たない。

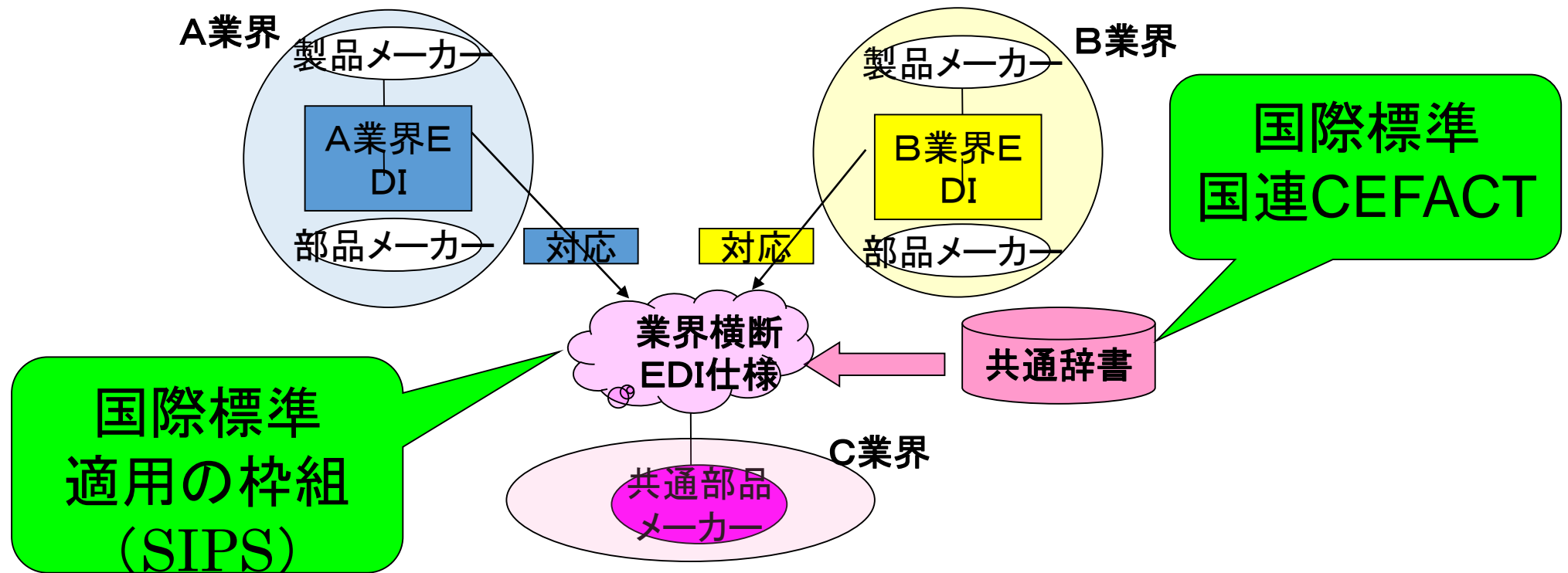


業界横断EDI仕様による ビジネスインフラの実現

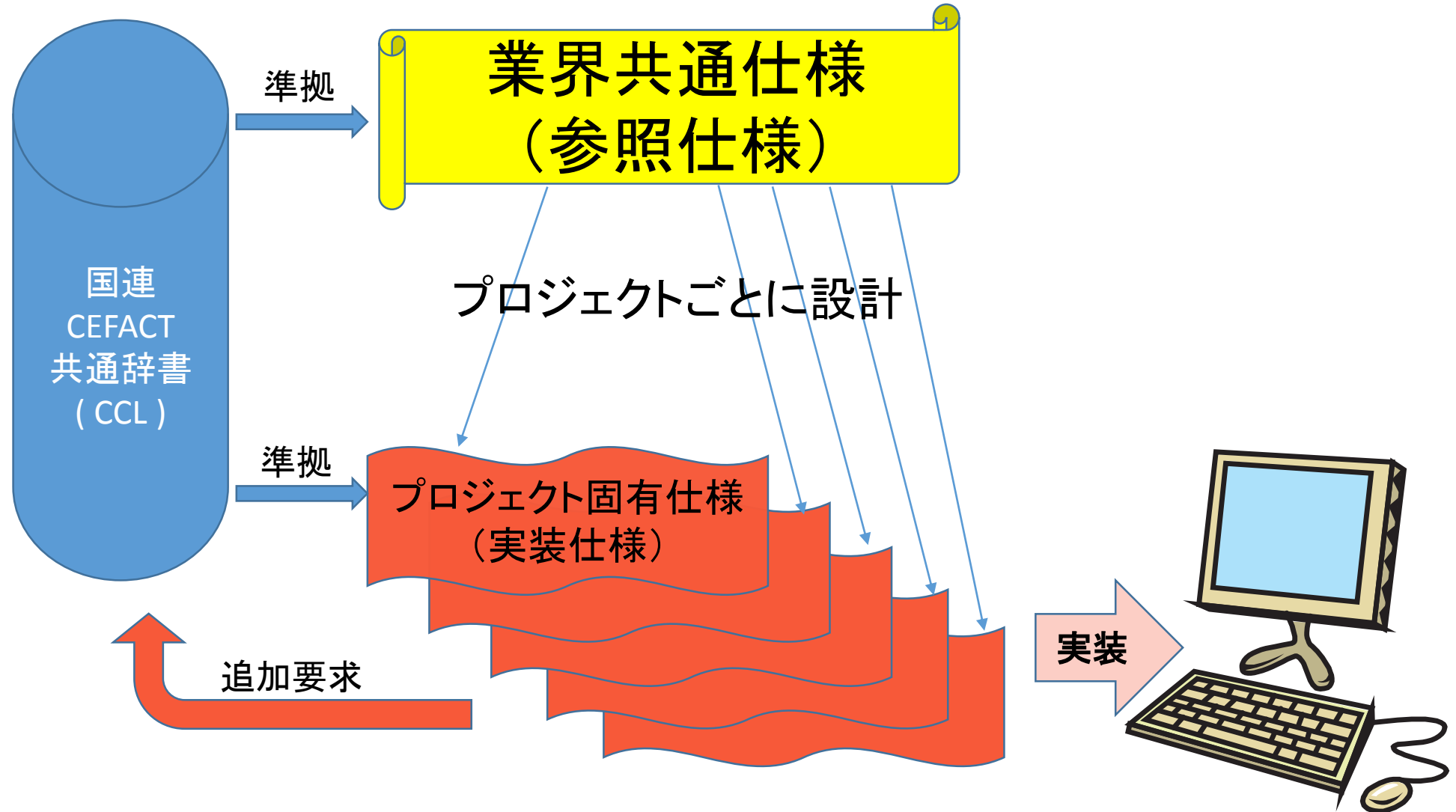


相互運用性のための業界横断EDI

複数の業界と取引する企業は「業界横断EDI仕様」で行う。各業界標準EDIは「業界横断EDI仕様」に対応することが望ましい。



業務領域(プロジェクト)固有要求に対応



業界横断データ辞書登録メッセージ

1. 中小企業共通EDI

- 中小企業共通EDI基本仕様メッセージ
見積、注文、納入、請求
- 中小製造業仕様メッセージ
見積、注文、納入、請求
- 中小商社購買仕様メッセージ
注文、納入、請求
- プロジェクト取引仕様メッセージ
見積、注文、納入、請求

2. 金流商流情報連携

支払通知メッセージ

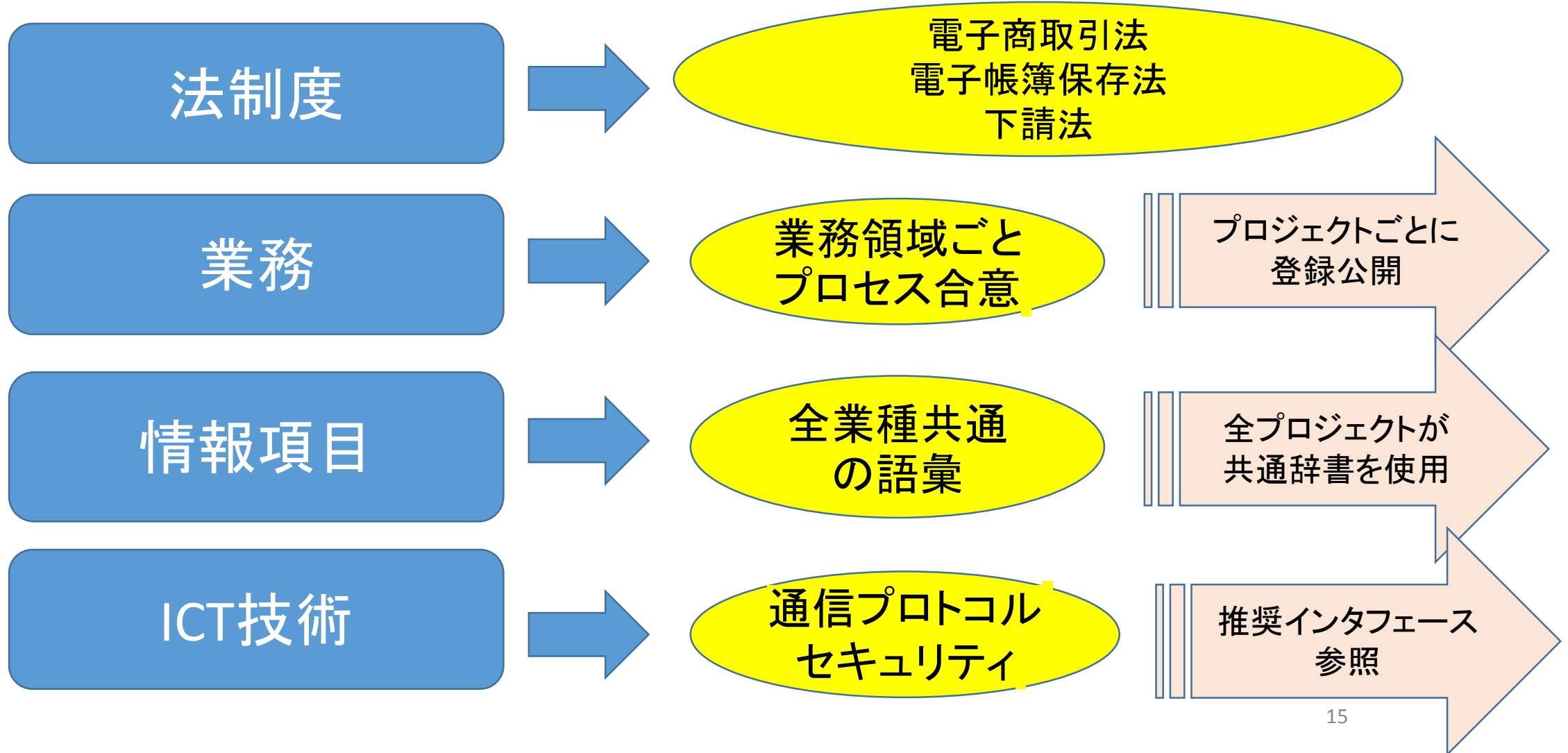
3. 自治体消耗品購買

注文、出荷、検収、請求

4. JIT生産方式(国際標準化作業中)

需要予測、納入指示

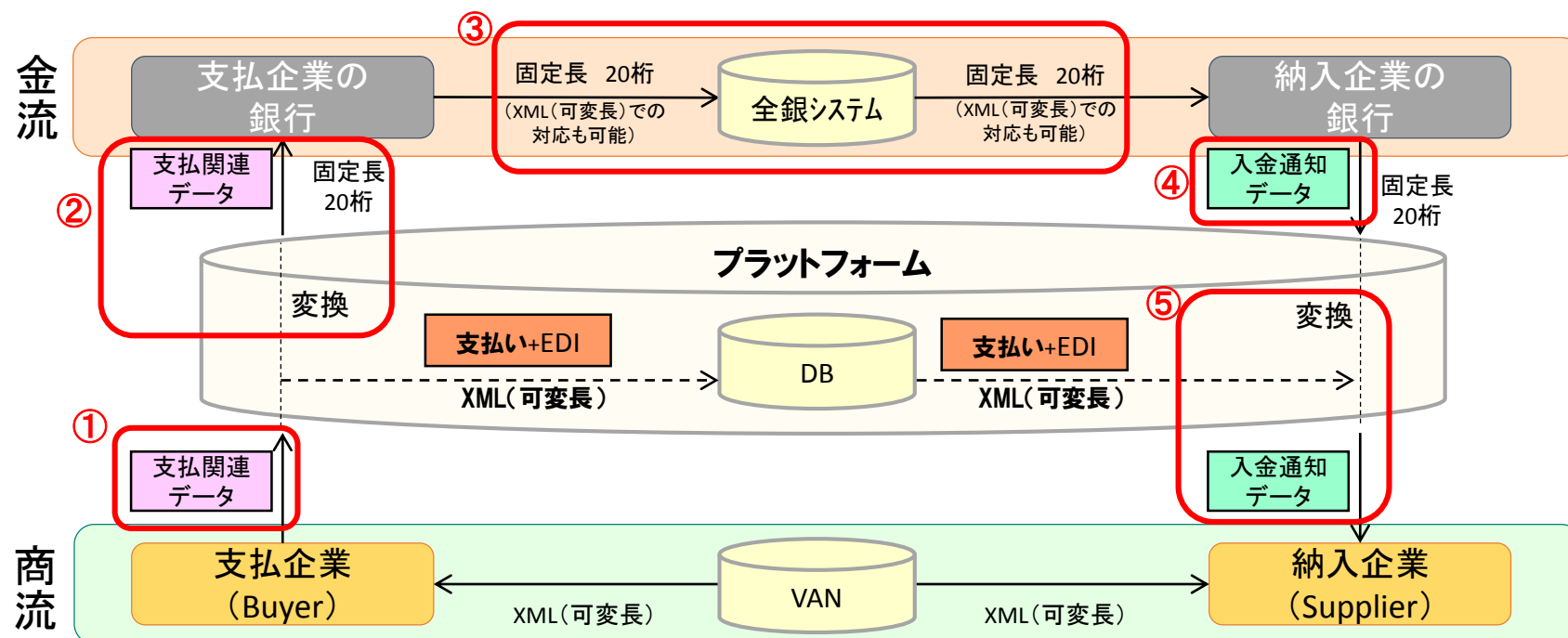
相互運用性領域



国際標準による金流商流情報連携

国連CEFACT標準とISO標準の融合

入金消込業務の合理化
キャッシュマネジメントの高度化



* 2018年度サービス開始に向けて鋭意検討中！

ビジネスプラットフォーム

